

## 農政産業観光委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成24年12月6日(木)

2 出席委員(7名)

委員長 白壁 賢一

副委員長 望月 利樹

委員 高野 剛 棚本 邦由 齋藤 公夫

森屋 宏 大柴 邦彦

欠席委員(3名)

浅川 力三 前島 茂松 樋口 雄一

地元議員 (都留市・西桂町) 堀内 富久 議員

3 調査先及び調査内容

### (1)【産業技術短期大学校 都留キャンパス工事現場】

○調査内容(主な質疑)

問) 10頁の就職状況の推移についてであるが、県内就職率が高く、有り難いと思っている。どのような取り組みを行い、県内への就職率を高くしているのか。

答) 後援会や機械電子工業などの産業界との連携を図っており、ものづくり系の学科は県内の就職率が高い。観光ビジネス科についても、地元のホテル業等での企業実習などを行っており、地域や企業等とのつながりがある。

問) 校長先生の説明にあった大企業への就職を高めていきたいとの話だが、大企業となると県外への就職が多くなるのではないかと懸念するが、その点についてどのように考えているのか。また、現在の就職先は、どのような企業になっているのか。

答) 就職先については、産業技術短期大学校学校案内の27頁をご覧いただきたい。これは、これまでの主な就職先である。

答) 県内就職率の高さへの補足にもなるが、県内への就職を希望する学生がふえている。東京エレクトロンのような状況もあるが、まだまだ県内にも大企業はあり、過去に就職した実績もある。入学してくる学生の学力差はあるが、上位の学生は優秀であるため、それらの学生を県内の大手企業に就職できるよう、習熟度別の授業もプラスしていく努力が必要ではな

いかと考えている。

問) 都留キャンパスの生産技術科は募集人員が12人に対し、8人の出願と低い状況にあるが、どのように考えているのか。

答) 優先入学で主に対象となる学校が谷村工業高等学校と富士北陵高等学校の2校となるのが理由と考えている。谷村工業高等学校においては、今年度の1年生から都留キャンパスとの連携を見据えた学科改編を行っているため、将来的には希望者がさらに増加してくるものと考えている。これは、推薦入学の検定状況であるため、今後一般入試によっても改善されると考える。

問) 産業界との連携との話があったが、産業界が求める機器を扱える人材という面で、機器の整備状況についてどのようになっているのか概要を伺う。

答) 産業界で必要としている設備を参考に、比較的最新の設備を導入している。在職者訓練もできる設備となっているため、問題のないレベルの設備であると考えている。

問) 産業界との連携は、定期的な話し合い等が行われているのか。

答) 産業界との連携は200社ほどが加盟している教育振興会と行っていたが、教育振興会の中に機械電子の関係、情報通信の関係、観光ホテル業の関係と3つの部会を設け、あと後援会と同窓会、トータルで人材育成推進合同協議会として、今年の秋以降、推進していこうという動きに変えた。

問) 推薦入学者が19名とのことだが、一般入学検定はいつ行うのか。

答) 別紙1に記載があるが、一般入学検定の前期が12月17日から1月29日までの出願期間となっており、2月5日試験を行う。後期が3月4日から3月15日までの出願期間となっており、3月21日試験を行う日程となっている。

問) 定員の30人は確保できる見込みなのか。

答) 一般入学検定において、普通高校の生徒の応募も見込まれるため、定員の確保ができると考えている。

問) 講師を確保し、カリキュラムも決めている。生徒一人に対する費用対効果といったこともあるので、定員の確保に努めてもらいたい。昨年の入学者が92人で卒業者が106人となっており、数が合わないと思うが、なぜか。

答) 卒業まで2年在籍するため、昨年度の卒業生106人は平成22年度の入学となり、114人入学している。また、平成22年度はリーマンショックの影響で就職が厳しいこともあり、産業技術短期大学校への入学希望者が多かったため、定員を臨時に100名から114名へふやした。

問) 定員をふやしたいという話も聞いている。産業技術短期大学校の人気度も年によって変わってくると思う。観光ビジネス科は、普通高校からの入学者も多いと思うので、要望があればどんどん受け入れて大きくしてもらいたい。全ての学科において定員を上回る入学者にしてもらいたいが、どのように考えているのか。

答) 観光ビジネス科は文系ではあるが、実習の設備的な制約もある。特に、理系は機械設備の関係があるため、3年前の入学人員が精一杯である。

ここ1～2年、4年制大学と併願をしている学生がふえており、定員を上回る合格者を出しているものの、4年制大学に合格してしまうと、そちらに入学してしまい、定員が割れている状況にある。問) 3の業務の概要に環境変動に対応した生産技術の開発とあるが、今、異常気象の問題が発生している。親戚が白根で桜桃を栽培しているが、今の収穫量の状況は平年の3～4割ぐらいとのことである。温暖化や異常気象の問題について、果樹試験場では将来的にどのようなになると考え、どのような研究をしているのか。

※説明・質疑の後、産業技術短期大学校 都留キャンパス 工事現場の視察を行った。



## (2)【意見交換会】

産業技術短期大学校生と「ものづくりとホスピタリティ」の実践をテーマに意見交換会を実施しました。

### 主な意見

#### 出席者)

今、フライス盤作業の国家資格2級の勉強をしているが、フライス盤作業の国家資格3級を今年の夏に受検し、合格した。その時の成果品を回して見てもらう。これは、鉄の塊をフライス盤を使用して、測定器具を使いながら、図面に合うよう削ったもので、3級の試験内容の1つとなっている。今、目指している2級の検定は、3級よりもさらに、厳しく、ほとんどがプラスマイナス0.02ミリの許容誤差となる。

#### 出席者)

抵抗やコンデンサ、ICを使用した回路を製作し、実験などを行う授業を受けている。この回路では、電圧を一定間隔で発生させ、LEDを点滅し、その回数を表示するようになっている。回路や部品の知識を学び、卒業研究で自律型ゴルフ競技ロボットを製作し、11月24日に行われたロボコンやまなし2012に参加した。人間のゴルフと同様、ボールをホールに入れる打数を競うが、2チームが参加し、1チームは予選突破した。しかし、予選突破したチームも、学校で使っているフィールドとの違い、照明の違いもありセンサーが上手く動作せず、4チーム中4位との結果だった。今回のロボット製作を通じて、1カ所のミスも許されないため、細かい作業も完璧にしなければならないこと。ロボットを作るためにも回路設計や基板製作、プログラムといった知識が必要であるということ、あらためて感じた。

企業に就職してから、この学校やロボット製作を通じて学んだことを生かし、どんな作業も手を抜かず、さまざまな分野の知識を吸収し、多くの分野の知識をもった技術者に成りたい。

#### 出席者)

観光ビジネス科では、授業の一環として、甲州市観光ボランティアガイドの会の方と甲州市を巡り、地域の観光資源についての理解を深めるとともに、それを通じ、若者目線の新しいガイドマップの作成依頼を受け、観光ビジネス科旅行コースを挙げて、活動に取り組んだ。

講義において、歴史や文化を学んだあと、塩山松里地区、勝沼地区の2班に分かれ、ボランティアガイドの方との地域を巡る実地研修を経て、ガイドマップを完成させることができた。松里地区のガイドブックでは、若者目線のガイドマップの作成ということで、若者がガイドなしでもその地を十分に理解でき、興味を持てるツールづくりをコンセプトに、

若者が特に関心のある恋愛をテーマとして、恵林寺などの主な観光施設に加え、恋愛にまつわる塩山の観光地を訪れてもらえるように配慮して作成した。

また、恋愛だけでなく、食や近隣施設にもスポットを当て、恵林寺付近にあるおいしい団子屋や、温泉も紹介し、この観光地を訪れてもらう付加価値を高めるよう、工夫をした。

勝沼地区も松里地区と同様、若者に興味を持ってもらえるよう、マップを作成した。そのために、かわいらしさ、読みやすさ、持ち歩きやすさ、耐久度を追求した。内容は、ワインコース、

大善寺・大日影トンネルコース、寺町コースの3つから構成されている。このマップは、手元に1つしかないが、これであれば、後からもページを減らすことも増やすことも可能であり、水にも強く、折れにくい特性となっている。観光地の写真を付け、字は極力少なくすることにより、わかりやすく、若者にも手に取りやすいガイドマップとなるように工夫し、作成した。

松里地区については、やまなしおもてなし宣言にともない、ガイドマップの小型版を学生全員に3部ずつ配布した。これにより、観光ビジネス科の学生はもちろん、どの科の学生が観光客に出会っても、塩山を案内し、おもてなしをできるようにした。最初は、観光ビジネス科の授業の一環として始めた取り組みが、このように全体に波及する取り組みとなり、作成に関わったことに大変、喜ばしく感じている。

この取り組みにおいて、まず感じたことは、地域観光資源の再発見である。取り組み前は、塩山と言えば、恵林寺。勝沼と言えば、ワインという印象しかなかったが、実地研修に行くと、市外の方や県外の方にも紹介できるような、素晴らしい観光地や甲州市の情景をたくさん発見した。ガイドマップを作成し、それらを公の場で紹介することができ、大変有意義な取り組みとなった。

また、地域の方との親交を深めることができたのも大きな収穫であった。昨今、若者と年配の方との地域での交流が減っていると言われているが、取り組みを通じて、私たちからは、さまざまなことを話すことができ、地域からは若い世代に地元の良さを紹介することができる良い機会となったのではないかと思う。普段、このような機会はなかなかないため、学校が架け橋となり、地域の方との交流を持たせてもらったことに感謝するとともに、ご協力いただいた甲州市ボランティアガイドの会の皆さんに改めて、お礼を申し上げたい。

出席者)

情報技術科では、プログラマーを目指し、勉強に取り組んでいる。主に、最初に基礎知識を学び、プログラム言語として、C言語、Visual Basic、Javaなどを身に付ける。その他の知識として、データベースやネットワークなども勉強している。これらを勉強し、将来は、プログラマーやシステムエンジニアを目指している。

出席者)

私が卒業研究で作成している「販売員サポートシステム」について、説明する。このシステムはアンドロイド端末を用いた、大規模店舗での使用を想定している。少ない手数で

の情報伝達を目的とし、複数の機能を1つの端末に集約している。スマートフォンでも使用可能であるが、今日は、タブレット端末で説明する。メイン画面の上側の部分で送信の対象者、これは個人やグループ、全従業員といった単位で指定ができる。下側には定型文があるため、設定し、送信することができる。送信前に「撮影ボタン」を選択すると、メッセージと一緒に撮ったばかりの写真も添付できる。

また、定型文の他にも、メニュー画面のほうで直接入力できるものも用意してあるため、手入力で文書を送信することも可能である。この他にも、送受信の略歴が残るため、指示内容がいつでも確認することができる。終わったものは削除することも可能である。バーコードから商品の情報をサーバーから取得する機能もある。さらに、突発的な指示の場合は、手よりも声のほうの方が早いため、録音と再生機能も持たせてある。サーバーはノートパソコンでもデスクトップパソコンでも可能である。各端末からサーバーの情報を取得することも可能であるため、サーバーの大きなメンテナンスにも対応が可能である。このソフトをアンドロイドのソフトウエアコンテストに出品し、審査員の方から「このままでもすぐに現場で使えそう」との評価と賞をもらうことができた。このように、目に見える形で今まで学んできた成果が出せたと思っている。

議 員)

友人の多くが製造分野に携わっているため、先週もトラックのフレームで、一番基本になる部分の金型の視察をさせてもらうなど、県議会の机の上だけでなく、皆さんと同じくらい興味を持って、現場に行っている。県立産業技術短期大学の卒業生が、企業の実践の場で活躍されていると評価され、よく卒業生は産業技術短期大学で学んだことが役立ったと、両方で成果がでることについていつも期待しているが、就職に当たって、産業技術短期大学の勉強がどのように役に立ったのか、あわせて苦労した点を伺いたい。

出席者)

企業に役立つと思う点は、2年生で勉強した金型設計実習である。内定をもらった(株)育良精機製作所は、プレス機で製品を作る会社だが、プレスを作る工程で、金型設計実習が生かされると思っている。辛かったことは、実習ですり傷や切り傷などのケガが多いことだ。

出席者)

観光ビジネス科では、旅行業に関する勉強やホスピタリティ精神がテーマとなっており、お辞儀の練習や歩き方など、作法の勉強もする。私の就職は鉄道関係であるが、授業の中で鉄道の規則も勉強をする。それが、直接、就職に繋がっている。お辞儀や歩き方を練習することによって、面接などの就職活動において、周りよりも目立って良いお辞儀良い歩き方ができた。自分が見て、人のお辞儀が変だと思えるくらい産業技術短期大学で鍛えてもらえるので、そういったことが非常に役に立った。苦労した点は、JRのルールや日本の観光地、世界の観光地など、たくさん勉強するため、その点が苦労した。

出席者)

情報技術科では、1年生の最初の頃、基礎知識を勉強するが、プログラミングなど実践的なものも多く、先生からの課題も多い。これらのことをすることによって、会社に入ってから、即戦力となる知識が身に付いているのが強みであると思う。普段の勉強が就職に有利になったと思う。苦労した点は、1日1個では間に合わないくらい、課題の量がすごく多い。とても大変だが、この課題を行うことで、応用も効くようになり、独自で学ぶよりも知識がさらにふえたと思う。

出席者)

旅行業に就職するが、授業で国家試験の国内旅行業務取扱管理者資格を取得することができた。2年次に受けた、総合旅行業務取扱管理者試験には落ちたが、国内旅行業務取扱管理者の資格が旅行業に役立つと思う。授業では、実際にツアーを企画したりするので、そういうことも就職してから役に立つと思う。来週は、実際に自分たちで企画した旅行に行くので、添乗業務もでき、実践的な技術が身に付いていると思う。

議 員)

観光ビジネス科の方に聞きたいが、私は県議会議員になる前、山梨交通(株)に約30年勤めた。会社では、添乗業務やタクシーの支配人、観光バスの担当などもした。先ほどの話にあったホスピタリティ精神の育成について、タクシーの運転手に教えるのは、すごく難しい。タクシーの運転手は、1回外へ出かけると、誰も見ていなく、監視ができない。また、タクシーの運転手になった理由を聞くと、「人に使われるのが嫌だからだ」と簡単に言われたりもする。今までにどのような教育を受け、教える立場となったときに、どのようにホスピタリティ精神を教えるか、伺いたい。

出席者)

ホスピタリティ精神というのは、おもてなしの心であるので、自分がお客の立場にたったらどのように感じるかを考えることが、まず必要だと感じる。タクシーの運転手の方は、自分がタクシーに乗って、そのような接客を受けた場合、どのように感じるかということ考えたことがないことが、原因かも知れない。

まずは、お客の立場に立ち、どのような接客を受けたら嬉しいと感じるか、どういう言葉を掛けてもらえると嬉しいか、などを考えることが必要ではないかと思う。

出席者)

私も、自分がどのような接客を受けたら嬉しいと感じるかを考えることが必要だと思っていた。気持ち的なものであるため、強制的にするものではなく、自分で思っやることなので、教育するのは難しいと思う。まずは、マニュアルを作り、マニュアルに沿って行うなど、最初は強制的になるかも知れないが、将来的には、お客の立場に立ち、自分がどのような接客を受けたら嬉しいかなどを考えられるようになれば、良いのではないかと思

う。

出席者)

お客がいなくてお金が入ってこないの、そういうことを意識させ、お客を大切にすることを考えるようにすれば良いと思う。そうすることによって、リピーターがふえると思う。

議 員)

皆さん、素晴らしいことを言っていると感じた。話し方もニコニコしながら話をし、ホスピタリティ精神に溢れ、素晴らしいと感じた。社会に出ても、ぜひ、活躍して下さい。

議 員)

電子技術科の皆さんに伺いたい。ロボコンやまなしなど、いろいろと挑戦しているようだが、日本のロボット技術は、世界一と言われている。皆さんは、将来、どのようなものに挑戦したいとか、夢があるか。

出席者)

卒業研究でロボットの製作をしているが、自分が作ったロボットが製品として売れるぐらいのレベルまで技術を持っていきたい。

出席者)

今、行っている技術も細かいと思うが、もっと細かい技術を身に付けたいと思っている。

出席者)

ひとつの分野の知識だけでなく、例えば、電子技術科では、授業においてマイクロコンピュータを扱うために、プログラムの勉強もしている。そういった部分も併せ、さまざまな知識を勉強していきたいと思っている。

議 員)

同じ内容を情報技術科の皆さんにも伺いたい。

出席者)

勉強していることを生かしていきたいということもあるが、コンピュータが身近なものとなり、スマートフォンが流行しているので、そのようなものの開発にも携われればと思っている。

出席者)

プログラマーの次ぎの、システムエンジニアを目指している。システムエンジニアは、



直接、お客と話をすることも多くあり、接客も必要となるので、コンピュータだけでなく、人との関わりもふやし、そういうことも学べればと思っている。

出席者)

就職先は、下請けのプログラムを作るところではなく、エンドユーザーと直接、話を行う会社である。メインのシステムは、ほぼ出尽くしている状況だと思うので、狭いところ、または、かゆいところに手が届くようなソフトウェアの開発に携わり、それが後々、メインの一つになるような、パッケージ化されるような商品の開発に携われればと思っている。

議 員)

皆さんの顔を見ると、この学校で成長されているんだろうと感じる。このまま社会に出ても十分通用するような意見が出ているが、この学校でやり残したことがあれば、聞かせてもらいたい。

出席者)

産業技術短期大学校で取れる資格が他にもあるので、それを取っておきたかった。

出席者)

去年は外部講師の方が来ていたが、今年は予算の関係で呼べなかった。そのため、今年教えてもらえなかったのが、残念だった。

出席者)

資格を旋盤の3級しか取得していないため、あと1つくらい取得したかった。就職先は、プログラムを使って機械を制御するので、2年の前期しか、プログラム制御の授業がないので、もう少しその授業を受けたかった。

出席者)

ロボコンで優勝したかった。

出席者)

自分のロボットは予選落ちしてしまったので、ロボコンで予選は通過したかった。

出席者)

まだ、3カ月あるので、まだまだやることはいっぱいある。

出席者)

今年、総合旅行業務取扱管理者試験に落ちてしまったことが悔しかった。来年は合格したい。

出席者)

旅行業について学ぶ機会があり、総合旅行業務取扱管理者試験を受検したが、落ちてしまったことが悔しい。

出席者)

もっと英語の勉強をしておけば良かったと思う。資格取得のための時間がたくさんあり、そのための時間もあまりなかったが、これから就職して、いろいろなお客と接するときには、英語が必要となるため、もっと英語を勉強しておけば良かった。

出席者)

今、プログラマーの実力として、伸び悩み、壁を感じている。卒業までに、その壁を越えたい。

出席者)

資格の基本情報技術者の試験があったが、落ちてしまった。来年以降、取得したい。

出席者)

学生の最後のチャンスで基本情報技術者の試験に合格できたので、後は、卒業研究をがんばりたい。

議 員)

県に対して、情報の関係でもう少しこのようなことをやって欲しいとか、観光の関係でこのようなことをやったほうが県は良いのにとか、産業の関係で県がこのようなことをすれば、若い皆さんが働きやすいというようなこと、そのほか、普段考えていること、先生がつぶやいていることでも良いので、教えていただきたい。

出席者)

学校の勉強だけでは、働くということがどういうことかよくわからないので、インターンシップのように、実際の会社で仕事してみたいと思った。

出席者)

観光について勉強していくうちに、山梨県は交通の便が悪いとの話が良くでてくる。電車を使用してよく思うのが、朝と夕方は比較的短い間隔で電車はあるが、身延線では昼間の時間帯は、1時間以上間隔が空くので、もう少し、時間の間隔を狭めてもらいたい。南アルプス市のほうでは、電車が通っていない。観光客は車で来る方が多いが、もう少し交通網が発達してくれれば、電車でも観光地に行きやすくなり、もっと多くの観光客が来ると思う。

出席者)

情報技術科としては、プログラマーの就職の受け皿が山梨県は少ない。県内就職を目指してがんばっても、県内に受け皿がないため、東京や神奈川などの県外に就職する同級生も多い。山梨県は、東京などの大都市にも近く、物価も安い。情報業はほとんどが人件費であるため、東京から仕事を持ってきて、県内の就職先をふやしてほしい。現在、都留キャンパスには情報技術科はない。県内の就職先がふえてくれば、都留キャンパスにも情報技術科をつくる必要がでてくると思うので、県内の就職先をふやしてもらえればと思う。

議 員)

山梨県情報通信業協会のようなところから、協会加盟企業からの募集はないのか。

出席者)

就職は、学校を通じてが多い。学校が窓口となり、そこから就職活動を行うのがメインとなっている。県内就職にこだわり、他の業種に就職した同級生もいる。現在、情報技術科の生徒を受け入れるだけの就職先が足りていないと思ってもらって良い。

出席者)

観光ビジネス科では、毎年1月に企業実習ということで、旅行会社などで実習をしているが、山梨県でもおもてなし条例を制定し、観光に取り組んでいるので、行政のほうにも実習として、観光部などで学ぶ機会を作ってもらえればと思う。

議 員)

現在、企業のみの実習であるため、観光振興課や観光推進機構などで実習がしたいということか？

出席者)

そのほうが、より山梨県の観光に触れられるのではないかと思います。

議 員)

限りなく、皆さんの要望に応えられるように要請します。ここで良いと言うわけにはいかないが、皆さんが勉強していることを実践したいということを止める県ではいけないと思う。要望しておく。

議 員)

皆さんの話を聞いていると、技術で進むひと、情報で進むひと、電子で進むひとと、職人気質のひとが多いが、新しい時代で情報のひとたちは、また、職人気質と違った感じを受ける。議員と同じで言葉が滑らかなのは、観光ビジネス科のひとたちが多く、そのような勉強もしているのかなと感じた。「おもてなし」とよく言葉を使うが、言葉の由来とし

て、おもてもうらもないということで「おもてなし」、うらがないという意味だとも言われている。

今、中央自動車道が通行止めとなっているが、これが7月であったなら、山梨県はモモもブドウもスモモも、全部ダメになってしまい、大打撃を受けるような状況にある。

お互いができる分野、国においては、外交であったり、県議会においては、山梨県の中で重要な部分を進め、良くない部分は、抑えていくというような責任を果たしていく必要がある。

皆さんは、お互いのせめぎあいはあると思うが、これからも夢をもって進んでもらいたい。

とくに、皆さんを教えている講師を、他の大学や短大と同じように教授制にすると、教えられるほうも、教授から教えてもらうのと、講師から教えてもらうのでは違いがあると思う。カリキュラムについて、少し意見も出されたが、そういう分野でも、一段、底上げができるような学校を目指して、そのためには、皆さんがさまざまな意見を出したり、いろいろな要求をしていくことが大事ではないかと思う。

この前、山梨県で昨年、22の企業が入ってきたとの話があったが、どういう企業が入ってきたかとの質問には、守秘義務があり発表できないというような、話があった。

また、ソフト分野の企業が山梨県にいくつあるかは、本当にわからない。県では、指導しながら、ソフトに行きたい人は、「このような会社があるよ」など言えるように、おのおのがそれぞれの持ち場において、皆さんの能力を伸ばせるように、県も議会も努力していくことが改めて、大事であると思った。

この学校は、素晴らしく広い敷地でもあるので、十分に楽しみながら2年間、しっかりと勉強していくことが大事だと思う。これから、皆さんがどのように成長していくのか、各分野においてがんばってもらえるように、心からお願いを申し上げる。

## 議 員)

県議会というのは、県の行政をチェックするのが仕事であるため、皆さんからの意見を県に伝えながら、改革、改善を積極的に進めていきたい。皆さんも一人ひとりががんばって、自分のため、県のため、国のため。山梨県は資源がなく、人材こそが資源であるので、皆さんが一生懸命がんばって、将来の山梨県が明るいものであるように、ぜひ、努力をしていただくことを期待申し上げます。



以上